

とやま 保険医新聞

2015年 富山県保険医協会
5/15 富山市桜橋通り6-13、フコクビル11階
第370号 (076) 442-8000、FAX 442-3033
発行人 矢野博明
(年間購読料6,000円・一部500円)

医療安全を推進し、医療従事者の人権を守る制度に

『あるべき医療事故調査制度を 考える研究会』を開催



講師の大磯氏 会場のボルファートとやま 4階 琥珀

協会は四月二十五日、医療事故調査制度をテーマに研究会を開催しました(九〇人参加)。講師は、今年三月に公表された厚労省ガイドラインの検討会メンバーとして議論に参加した、

すべての医療機関が対象となる医療事故調査制度

今年十月に始まる医療事故調査制度は、病院だけでなく、医科・歯科診療所、助産所において「医療に起因するか、起因すると疑われる死亡・死産で、医療機関の管理者が予期しなかったもの」が起きた場合に調査・報告を行う仕組みです。大磯氏は、三月に取りまとめられた厚労省ガイドラインの内容、そこに至った背景、医療事故調査・支援センターや遺族への報告、説明等実際の運用における

本号の見どころ

- 個別指導厚生局開示資料 (2面)
- 4/4歯科「個別指導・監査講習会」 (3面)
- 4/11在宅医会・春の例会報告 (4面)
- 雇用管理④「休日、休暇」 (5面)
- 日本酒を楽しむ① (6面)

ポイントを解説しました。また、日本では歴史的に医師の刑事責任が追及されることで萎縮診療、医療崩壊を引き起こしている指摘も、つい追及してしまっ

責任追及は医療安全確保と完全に切り離すべき

「医療安全の確保は国民の最大の利益になる。訴訟を促進することは弁護士利益になるが、国民の利益にはならない。現場医療従事者の個人責任の追及、とかげのしっぽ切りを繰り返してはならない」という、医師であり弁護士である大磯氏の信念を感じる講演であった。

議論の根底には、医療者と弁護士の間利益相反があること、そして病院管理者と医療従事者の間にも、意識するしないに関わらず利益相反があることも指摘された。そして「医療事故調査制度に係る検討会」では、ガイドラインの内容をめぐって責任追及派と医療安全派の間で激しい攻防があったことが述べられた。

実際の運用にあたっては、医療安全確保と責任追及は完全に切り離して考える(調査する)べきであり、具体的な対応策として医療事故調査・支援センターへの報告書や院内調査資料における書き方と匿名化が今後重要となることが強調された。匿名化にしても医療安全確保の目的を損なわないし、個人情報保護法による開示請求対策になる。また調査後の遺族への説明の際も、医療安全目的を損なわない(責任追及としない)よう慎重な対応が必要とした。最後に、開示しても直ちに個人の責任追及に使われない報告書を作成できるように医療機関が学習していくべきであることも付け加えた。

十月より制度の運用開始となるが、どのように運用されていくのか目を離してはいけないと感じた。(川瀬医院 川瀬 紀夫)

忘れていませんか?

共済加入手続きのメド切 5月25日

第36回

保険医作品展 and ファミリー展



今年の会場は
リニューアルした
富山県民会館です

初めての方もお気軽に
作品大募集!

作品: 絵画・写真・工芸・書など
出品者: 医師・歯科医師・家族・従業員、患者さん
出品料: 無料 (搬入出も協会負担)

開催期間 7/28 (火) ~ 8/2 (日)
申込締切 6/30 (火) (搬入方法は申込時にご連絡します)

「保険診療の手引」研修会

日時 6月18日(木) 午後7時30分~9時15分
会場 ボルファートとやま 2階 真珠の間
対象 会員および会員医療機関スタッフ

講師 加藤 真二氏 『保険診療の手引』編集担当
テキスト 『保険診療の手引』2014年4月版
参加費 無料 (ただし、当日はテキストが必須です)

『保険診療の手引』は、医療保険の基礎知識から、カルテ記載の留意点、保険外徴収の取り扱い、診療報酬点数の解釈・算定方法、請求事務の実際、審査支払機関への対応など、保険診療に携わるうえで不可欠な事項を凝縮した唯一の総合手引書です。

発行 全国保険医団体連合会
体裁 B5版 約1,600頁
会員価格 4,000円 (定価5,000円)



研修会で使用するテキストです。お持ちでない場合はご購入の上、ご持参下さい。(当日販売もします)



「反知性主義」が跋扈している。本来は「知性の不足に対して形容される言葉ではなく、現場での体験の蓄積や生活の知恵がもたらす判断力を、知的な営為や想像力が組み上げた合理性よりも信頼するに足るといふ保守的イデオロギー(平川克美)であった。しかし今の日本では「知識も体験も知恵も無視し、自分の独善や主義主張を無理矢理押し通す現象」として定義される。政府が、首長が、電力会社、マスコミが、さらには選挙民までもが「反知性病ウイルス」に罹患している。知識がないわけではない。まず自分の正当性があり、有り余る知識をその補強、他者への攻撃に使う。知性は他人を変えるためではなく自分が変わるためにあるのに。「反知性的な」人は饒舌で美辞を並べ、「見せかけの善意」「豊富だがバラバラな知識」「新しそう、希望を抱かせる」など共通性がある(「美しい日本」「希望の同盟」など)。生半かな知識があると尚更危ないらしい。病気になるないように気をつけたい。(K・O)